

漢字は面白い

結論からいえば、どちらの表記も良い。意外にも、今回は国語審議会はそれほど無茶なことをしていません。珍しく。漢字の経過、意味合いの変遷をみてみると、両方OKというのが筆者の考えです。

【聯】
「聯」の変化を図1に示します。

「聯」は甲骨文字時代から存在します。構造は、耳に絲。用例は、長雨（つらなった雨、続く雨）、つらなつた玉器、つらなる、です。殷の時代から現代まで長く同じ意味が続いている字です。

ところが時代がたつと、「聯」に新たなニュアンスが加わっています。筆者が調べても、いつ頃に新たなニュアンスが追加されたかはっきりしませんでした。用例から察するに、詩が高度に、複雑にルール化された時には、既に意味が加わっていたと考えられます。

「聯」に追加されたニュアンスは、熟語をみるとわかります。

〔聯の変化〕

結論からいえば、どちらの表記も良い。意外にも、今回は国語審議会はそれほど無茶なことをしていません。珍しく、漢字の堅岡、意味合への変遷を

「連合」、「連盟」。これらの語は、「聯合」、「聯盟」の表記もします。戦後、役人が「連」のみにせよと命じたため、現代人は「連合」と書きます。戦前の文書にあたることがある方の中には、「聯合」と書く事が正しいと述べる方もいらっしゃいます。戦後の国語審議会による

い説や、爽やかな説があります。用例、証拠が少ないと、確証が得られないといふのが現状です。

おどろおどろしい説は次のようなもので、戦争で敵を仕留めた、捕虜にした人の耳を切つてつなげたという話。図1を見る、つなげたという割には耳が1つしか書かれていません。甲骨文字では糸にしろ人にして、つなげる場合は複数描かれるのが常ですから、疑問が残る説です。

さわやかな説は、耳飾り。または物とみて、

途中で「絶」たつ部分が、なぜか「絶」にかわりました。筆書きの見間違いかもしません。秦、漢、北魏、唐、元、明の時代は「聯」「聯」の形で残っています。しかしなぜか『康熙字典』で「聯」となります。『康熙字典』は元々の「聯」を別字のように扱います。「聯」の音・意味はケイレンの「聯」の字と同じになっています。何が起きたのでしょうか。全くわかりません。

「聯句」、詩の中の対になる部分。「対聯」、入囗などの左右の柱に詩を分けて書いて書いたもの、対になっている掛軸など。「聯璧」、対になつた玉。「珠聯璧合」、日月星辰のように合わさるさま。

このように、「合わさって」一つの機能・働き・完成物をしめす」ようなニュアンスです。熟語をみると、「聯合」の方が良いという意見も納得できます。複数の物・国がよりあつまつて、一つとして働く。好い感じがします。

この成り立ち説のニュアンスをみれば、「聯合」が良いとする意見もあります。その通りでしよう。

ところが、春秋晚期作だろうといわれる

車	春秋
車	戰國
車	秦
車	楷書

【連の変化】

「連」の変化を図2に示します。初出は春秋時代のおわり頃。出現時から連なるの意味で使用されています。「聯」と完全に別の字。新旧の関係ではありません。字のなりたちは、これもはつきりしません。車の列が続くとも、車を牽くさまもも云われます。列が続く説は、大名行列みたいな感覚ですね。同じような車や人が次々とやってきては通り過ぎる、そのような感

【おわりに】
たかを考えると夜も眠れなくなり……。無駄なことはやめてサッサと就寝することをおすすめします。

たかを考えると夜も眠れなくなり……。無駄なことはやめてサッサと就寝することをおすすめします。

【おわりに】

このように、用例・熟語をみると、字のニュアンスや新たな面が発見できて楽しいです。漢字は、辞書の意味部分だけをみてもわからない世界がその先にあると感じられます。

社会運動学会認定講師 村上太佑
漢字の成立ちや用例を楽しむ「漢字は面白
い講座」を毎月行つております！